

# 迷走する介護保険制度の改定議論

6月8日、神奈川ネットも参加する「介護の崩壊をさせない実行委員会」は、厚生労働省職員と意見交換しました。

## 極めて異例な先送り

介護保険制度は3年に一度見直されます。2024年4月から始まる3カ年計画（第9期）に向けて、社会保障審議会の議論は昨年末までにまとめられる予定でしたが、市民負担の引き上げを求める内容も多く、一部の結論は先送りされています。

## ここが問題です！

先送りした改定が実行されれば、利用者負担が増加し利用控えが発生することも予想されます。介護する人にも、介護事業者にも大きな影響を与えます。介護保険制度における公的責任を果たすために、利用者だけに負担を転嫁するのではなく、公費（国費）負担割合を高めることを検討すべきです。

岸田首相は、利用者負担の引き上げを実施するかどうか判断する時期を、今年度末まで先送りする方針を表明しましたが、選挙への影響も懸念し、難題を先送りしたい意図も見え隠れします。

## 先送りした主な課題

- ・ 高額所得者の保険料引き上げ
- ・ 自己負担2割の対象拡大
- ・ 老人保健施設などの多床室の有料化

### 神奈川ネットの3つの政治理念

1. 政治への参加をひろげる
2. 生活者の政治をすすめる
3. 市民民主主義をそだてる

### 5つの政治姿勢

1. キャンパとボランティアで政治と選挙を行なう
2. 議員もメンバーも活動を公開する
3. へんだなと思ったらミニフォーラムを開く
4. 議員の報酬は市民の活動費にする
5. 議員は2期8年で交代する

厚生労働省の職員は、「9期の制度改定に間に合うように結論を得る」と言いますが、結論が出て終わりではなく、それを受けて、自治体ごとに3カ年計画を策定してパブリックコメントを実施しなければなりません。予算の審議も控えており、自治体も事業者もヤキモキしているはず。政府および自治体には、市民への説明を尽くす責任があり、これ以上の結論先送りは許されません。



大河原まさこ衆議院議員のコーディネートで厚生労働省と意見交換

## 県議会が始まりました！

### 参加と自治の力で進める政治へ



神奈川県議会は、先の統一地方選挙を受け、定数105人に対し、女性議員は19人で18%となりました。これは、前回選挙からたった1人増えただけという結果です。ジェンダーギャップが叫ばれて

でも、女性議員の増加につながらないのは、議会の中の問題だけではなく、選挙制度や社会全体の課題が影響していることは言うまでもありません。

子育てや介護の分野では、担い手の不足が最も深



## 青木マキ

神奈川県議会では第二回定例会が開会中。青木マキは、今年度文教常任委員会の所属が決定しました。

刻な課題ですが、その根底には、これまで主に女性がアンペイドワークとして行ってきた仕事への評価の低さがあります。

当事者が政策立案の場に不在だったことを含めたジェンダーの課題であることはもちろん、それに気づくことすらできない状況なのではないかと思うのです。LGBT法案をめぐるドタバタも、当事者不在で、「何のために」が欠落した議論がもたらせた結果ではないでしょうか。権力を振りかざして力づくで変えていく「政治」から、おおぜいの人が、参加と自治の力で進める政治へ、変革をめざし日々活動を続けます。